

6年 7月 26日

浜田市議会議長 様

池田 卓

議員名

牛 尾 昭

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

政令サイクル推進地ろ議会フォーラム「政令サイクル分科会」

2. 受講の目的(市政との関連など)

住民自治の根幹としての議会の役割

3. 期間(移動日を含む)

令和6年 7月(3日) ~ 令和6年 7月(3日)

4. 経費

(1000 円

(経費内訳 受講料 (1000 円、旅費 円)

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

議会の形式改革が実を改革

6. 研修内容

(詳細は別紙のとおり)

別紙にて。



演 題：政策サイクル推進地方議会フォーラム「政策サイクル分科会」

日 時：令和6年7月13日（土） 13～17時（オンライン）

研修先：日本生産性本部

分科会趣旨説明（日本生産性本部）

問題提起「議会からの政策サイクルの必要性と展望」大正大学教授 江藤俊昭 氏
事例発表 ①「会津若松市議会の政策サイクル」会津若松市議会議員 松崎新 氏
事例発表 ②「飯田市議会の政策サイクル」

「市民の声が活きる議会へ」

飯田市議会議員 井坪隆 氏

「政策サイクルの実務」

前飯田市議会事務局長 和泉忠志 氏

江藤俊昭 氏の論点

到達点：形式改革から実質改革

住民自治の根幹としての議会の作動：議会改革の本史へ突入

①地方政治の台頭：議会の役割の向上

②新たな議会（閉鎖的でなく住民と歩む議会、質問の場だけでなく議員間
討議を重視する議会、追認でなく首長と政策競争する議会）

2 ステージ — 住民の福祉向上につなげる。

議会成熟度評価モデルの実装に向けた取組経過

～「会津 若松モデル」の構築に向けて」

1 成熟度評価モデルの実装化の取組経過

①会津若松市議会における議会評価制度の導入方法の検討

②議会成熟度評価モデルによる試行的評価を実施。

2 会津若松市議会新たな評価の取組経過・調査研究

議会における評価の2つの領域

- ・議会基本条例に基づく議会運営が実現しているか
- ・住民福祉の向上

議会が地域経営に関わりどの様な成果を残したか

3 二元的代表制の作動に基づく政策評価

* 執行機関の領域における評価

① 執行機関からの提案及び実施内容は適切か。

② 議会が提案した政策や提案はどの程度実現されたか。

* 住民の領域における評価

① 住民の福祉は向上しているか。

② 住民(住民団体)が自律的に地域課題を解決していくためこの自治力が向上しているか。

* 議会基本条例に基づく議会の成熟度評価

- * 会津若松市議会の政策サイクルの評価。
- * 政策サイクル（議員任期４年間のサイクル）
- * 通年議会の導入

「地方議会成熟度評価モデル」の取組

飯田市議会 ～議会による自己診断～

- ① 我々は、今どこにいるのか
- ② ここからどこに行きたいのか
- ③ どうやってそこに行きたいのか
- ④ 我々は、地図を持っているのか

飯田市議会が「評価モデル」を通じて目指すこと

新しく設定したスローガン

「暮らし豊かないいだの未来を市民とともに」

～市民のしあわせに貢献する議会～

期待される役割「ミッション」と議会が実現すべき理想的な姿「ビジョン」

* ミッション

- ①市民の代表機関として議決の権限を行使し市民意思が的確に反映されるように活動します。他３点。

* ビジョン

市民との意見交換の場をもとに、行政評価からの決算と予算の連動及び政策提言などによる飯田市議会の政策サイクルがさらに充実しています。他３点。

改革から「変革」 ～住民の福祉の向上を目指す議会の新たな姿へ～

考察

すでに先進市議会は「議会改革の到達点：(住民自治の根幹)としての議会の作動：議会改革の本史へ突入している。会津若松市議会や飯田市議会も日本生産性本部の指導を受け「地方議会成熟度評価モデル」に取り組んでいる。

我々も、市民から期待されるミッションと、議会が実現すべき理想的な姿「ビジョン」を市民に見せる時期にきていることを痛感した。

以上報告します。 牛尾昭。